

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070402583		
法人名	医療法人 大郷内科クリニック		
事業所名	グループホーム あんずの郷		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目3番25号 (電話) 093-562-8700		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年4月5日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤14人, 非常勤2人, 常勤換算10.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	(光熱費)20,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有(退去時の居室の原状回復費に充当)
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ (月:1000) 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (1月15日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	77歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大郷内科クリニック・社会保険小倉記念病院・岩鍋歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あんずの郷」は、九州歯科大学に近接し、エリア内には大学や高校が多く集まる文教地区の中にあり、1階がデイサービスセンター、2・3階がホームとなる。母体となる医療法人「大郷内科クリニック」の代表者が、往診を中心とした地域医療に携わる中で「住みなれたこの地域の中で暮らし続けたい」という住民の思いに応える形で開設されている。母体法人との充実した連携を活かしながら、介護・医療関係者が常に連携を図り、日々の健康管理やターミナルケアへの方針を共有しており、馴染みの関係・環境の中で、入居者・家族の「あんしんとやすらぎ」のある暮らしの実現に向けて取り組んでいる。また介護の経験豊富な施設長・ホーム長によるリーダーシップのもと、職員の育成を重視し、相互に講師役となる勉強会やチャレンジシートの活用等、充実した体制が整備されている。地域密着型サービスとしての役割を、家族・地域・関係者との支えあいの中で果すべく取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年来続けているセンター方式の活用を深め、入居者の意向や希望に沿えるよう介護計画の反映に努めている。また地域との交流を深める為に、行事への参加のあり方や介護相談教室等、創意工夫を重ねている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が4回目であり、ケア会議等でミーティングを重ねている。職員にも緊張感があり、この機会を前向きに捉え、入居者・家族の安全・安心の暮らしの実現に向け、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、同法人のグループホーム「ねむの郷 金鶏」と合同にて、2ヶ月に1回、定期開催されている。サービス内容や行事の報告を行い、新たな目線での率直な助言をいただく事も多く、それらをサービスの向上に活かしている。入居者の方々の参加も試みている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に意見箱を設置しており、利用がない場合にも、本人や家族の意見や不満を会話の中からくみとり、ホーム長が代筆する形で投函し、職員間で検討している。また運営推進会議で家族からの意見を頂き、サービス向上に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の、文化祭・運動会・敬老会等に入居者と共に参加し、また散歩がてら防犯パトロールに参加する等、積極的な社会参加の機会を支援している。職員は地区のお祭りでは御輿を担いだり、また自治会の組長の役を担い、回覧板を案内する等、地域に溶け込んだ活動が行われている。校区の防災訓練に入居者とともに参加したり、文化祭での介護相談会を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	【地域に根ざした『あんしんとやすらぎ』のあるグループホームを目指します。】と地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げており、代表者が日々の診療で感じた地域住民の思いを、理念としている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を毎日の朝礼で唱和し、職員の意識に浸透するよう取り組んでいる。また日々、思いやりとやさしさの心で声かけし、入居者の方々の思いをくみとり、明るい笑顔で接することが出来るよう努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の、文化祭・運動会・敬老会等に入居者と共に参加し、また散歩がてら防犯パトロールに参加する等、積極的な社会参加の機会を支援している。職員は地区のお祭りでは御輿を担いだり、また自治会の組長の役を担い、回覧板を案内する等、地域に溶け込んだ活動が行われている。校区の防災訓練に入居者とともに参加したり、文化祭での介護相談会を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回が4回目となる外部評価について、ケア会議等でミーティングを重ねている。評価の機会を前向きに捉え、入居者・家族の安全・安心な暮らしの実現に向け、前回の評価をもとに改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、同法人のグループホーム「ねむの郷金鶏」と合同にて、2ヶ月に1回、定期開催されている。サービス内容や行事の報告を行い、新たな目線での率直な助言をいただく事も多く、それらをサービスの向上に活かしている。短時間でも入居者の方々が参加できるよう試みている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政より派遣される、介護相談員を受け入れている。研修会・事業所連絡会・グループホーム協議会等にて、行政担当者との交流の機会を持ち、報告や相談を行い連携を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者・職員は、権利擁護に関する制度について、内外の研修を受講し、学ぶ機会を確保している。入居契約時に本人と共に家族に制度について説明をしており、必要時に情報発信が行えるよう資料を整備している。法人内での制度活用の事例も有り、関心も高い。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	日々の生活状況を個別の写真に掲載して、毎月「ふれあい通信」として送付しており、家族の好評を得ている。請求書・収支報告書と共に、職員の異動等についても文書で送っている。急を要する場合は電話でお知らせするが、出来るだけ面談で詳しく報告するよう心掛けている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に意見箱を設置しており、利用がない場合にも、本人や家族の意見や不満を会話の中からくみとり、ホーム長が代筆する形で投函し、職員間で検討している。また運営推進会議で家族からの意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	基準以上の人員配置を行い、また職員の休みの希望にも柔軟に対応し、働きやすい職場環境づくりに努めている。やむを得ず異動や離職等が発生した場合にも、ホーム長が寄り添う等、入居者へのダメージとしないよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用には、年齢・性別・国籍等にとらわれず、公平な面接を行なって決定している。無資格者や外国人の採用も行なった実績がある。採用前にはボランティアとして数日ホームに来てもらい、相互の意志の確認を行っている。採用後は内外の研修参加を促したり、社会参加できるよう配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入社時に人権教育を行い、また年2回の職員面接の際には自己評価表を用い、人権を尊重したケアが出来ているか見直す機会としている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員全員に「気付き・思いやり・視野の広さ」を求めており、研修の年間計画を立て実施している。職員が順番に講師役を務め、教える難しさを理解しながら研修を実施するなどの取り組みを行っている。また経験を積んでいく過程で、役割に準じて研修内容を考慮したり、外部での研修参加を促している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や事業所協議会に参加しており、研修受講や情報交換、見学会等において交流する機会を持っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の相談時には、施設長とホーム長が家族面談に自宅や施設を訪問している。本人や家族が不安や心配な事や、大事にされている事柄、寂しがられる等の感情を真摯に受け止め、初回記録に残している。日帰り利用や家族同伴の体験入居を行い、徐々に馴染んでもらえるよう個別に柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で入居者に寄り添う時間を必ず設け、傾聴の時間を作っている。戦中・戦後の話を聴かせてもらったり、これまでの人生史を聴かせてもらい、人生の先輩として学ぶ事や考えさせられる事が多い。また得意とされる料理や裁縫などを教えていただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	面接時に、本人・家族に思いや意向を確認し、ホームでの暮らし方の希望を伺っている。入居者自身が決定したり、選択できる環境作りをしている。昨年来、センター方式の活用に取り組んでおり、日々のケアや介護計画作成へ活せるよう取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族・各入居者担当職員・計画作成担当で相談し、またかかりつけ医や看護師等の意見を聞き、具体的な課題、目標を設定して介護計画を作成している。		研修会で介護計画の考え方「生活の目標を目指したもの」である事を職員へ周知されていた。介護計画内容も具体的で即行動できる文章になっている。「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」に取り上げられた事柄の背景・分析がアセスメントで明文化されていると、更に個別性が感じられ、計画の見直しが行ないやすいと考えます。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて、本人・家族・必要な関係者と話し合い見直している。入居者に状況の変化や新たな希望等が生じた時は、毎日のミーティングや月1回のフロア会議で見直しを検討している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	お孫さんの結婚式へ出席したり、魚釣り、お寺さん参り等、入居者1人ひとりに「あなたの夢叶えます」として個別のレクレーションを実施し、要望に応えている。また個人の状況による医療連携体制作り、受診支援、自宅、美容院への外出支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居時に、本人・家族から希望を聞き、かかりつけ医を決めてもらっている。また入居者の治療に関して、協力医・看護師の立場から、またグループホームの生活の立場から話し合う「医療連携連絡協議会」が月1回開かれ、関係を深めている。		充実した医療連携体制の中で、看護計画に基づき、日々の申し送りにおいて、ケア、処置等徹底周知されている。
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居契約時に終末期のあり方について家族に説明している。また状況の変化に応じて、家族の心情を鑑み、繰り返し話し合いを重ね家族の意見を大事にしている。職員は終末期対応の経験や認識があり、方針を共有する体制が出来ている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	全職員がプライバシーに配慮したケアや声かけができるよう、内部研修を重ねている。入居者同士の気になる会話等では、さりげなく両者の間に立ち、大事に至らぬよう注意している。また姓で呼びかけ、自尊心や羞恥心に配慮したケアを行なっている。記録等の個人情報の取り扱いにも注意を払っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の意思を尊重し、日課に捉われない生活を提供している。一人ひとりのペースで対応するため、業務が煩雑になる時は職員間の協力体制を強化している。希望をうまく表現できない方には、日頃の状態から予測して選択肢を準備している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの方々が出来る事や希望される事を活かして、食材の買い物、調理、味見、配下膳、後片付け等を職員と共に行なっている。週に2回は入居者に希望を聞きながら献立を立てている。静かな音楽が流れ、トーンの低い会話の中で、ゆったりとした食事時間を職員と共に楽しむ姿があった。		視覚に障がいのある方が、職員から献立を詳しく説明を聞き、適宜な介助を受けながら美味しく完食されていた。
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	希望に合わせて、入浴時間、入浴順番、入浴剤の使用など個別に対応している。季節に応じた菖蒲湯や柚湯、家族から頂いた椿を浮かべることもある。また時には銭湯に行く事もある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	針仕事得意な方、洗濯物たたみを自分の仕事とされている方、料理得意な方など、その方の生活歴や習慣から把握して、役割や楽しみ事の支援をしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候の良い日は希望にそって外出を支援している。時には車でドライブを行なっている。外に出れない方もベランダ等で外気浴をして頂いている。当日も車いすの方、それを押す方、寄り添いながら3名の方が散歩に出かけていた。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は鍵をかける事の弊害を理解している。入居者の安全確認を行う場所や位置を工夫しており、居室や玄関には鍵をかけていない。エレベーターの前の扉にはセンサーでチャイムが鳴るよう対応している。		ヒヤリ・ハットの事例をとおして、入居者の安全確認作業の考察がその都度行なわれていた。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	校区の防火訓練に合わせて、避難訓練が行なわれている。地域の避難場所に入居者の方々も避難され、地域の自治会や歯科大の学生の応援も確保している。		地域共同の避難場所となっており、地域の方や運営推進会議の委員の自治会員、歯科大の学生等に、入居者の方々も顔なじみになったり交流の機会となっている。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	献立は栄養士によって作成されている。摂取量は毎回確認し記録されている。殆ど全員が完食であった。日課表にも組み込み、おやつ時間等に水分摂取を促している。必要な方は排尿量もチェックして水分補給を確保している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム あんずの郷

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	四季折々の花や行事の写真等が飾られており、季節感が伝わる和みある空間となっている。工事の音など、大きな音や不快な音は、短時間で終わるよう入居者の方々への影響が最小となるよう配慮している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居者の個性や生活習慣を大切に、ベッドでなく畳を敷き布団を使ったり、卓袱台が置かれた居室もある。「お茶を飲みにおいで」「座っていかんね」の声が掛かる中で、馴染みの家具や好みの物を置かれ、入居者が主の居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			